



らいぶらいぬ NEWS

2009年
6/30号



梅雨の季節が続いています

6月下旬にやってきた今年の梅雨・・・。雨が降っていると、晴れの時にくらべて外出する気持ちになりにくい・・・そんなシーズンです。でもこんな時は、普段ゆっくりと本を読めない人でも没頭して読書できるいいチャンス♪ 雨の日に読んでみたいと思える、そんな本を5冊ほどお薦めします。

「雨の日に読みたい本」

『いま、会いにゆきます』

市川拓司 著



映画・ドラマ化もされたあまりにも有名な物語。「1年たったら、雨の季節にまた戻ってくるから」と最愛の妻である滯はそう言い残し亡くなってしまいが…。妻を亡くした巧とその息子に訪れた6週間の奇蹟が雨の季節を舞台に美しくファンタジックに描かれている恋愛物語です。巧と滯のピュアで温かい愛に多くの人々が涙し、現在も『雨の日に読みたい本ランキング』で堂々第1位となっています。



雨の日は…ちょっとドキドキサスペンス☆

『レイン・フォール/雨の牙』バリー・アイズラー 著

日米ハーフのジョン・レインはベトナム戦争を体験した殺し屋だ。彼はターゲットを自然死に見せかけて殺す事で、幾度も政治がらみの暗殺を手がけ、今回の依頼も難なくこなした。しかし、そのキャリア官僚が持っていた国家機密が隠されたディスクにより、彼は国家的な陰謀の渦に巻き込まれ、その官僚の娘みどりと共に、CIA、政界の黒幕、そして警察庁からも追われる立場になる。日本の裏社会・政治サスペンスであるため、緊張感が途切れることのない厚みのある骨太の物語となっている。



『レインツリーの国』有川浩 著

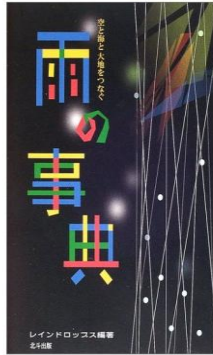
きっかけは1冊の本。そこから始まるメールの交換。しかし、かたくなに会う事を拒む彼女には、ある理由があった――。互いの違いを理解しようと努力する姿に心を打たれます。気持の描写が丁寧でわかりやすいので、少しずつ傾き募る気持ちに読み手も引き込まれます。



『雨の事典』

レイド・ロップス 編

雨についての歌、文学、言葉、映画、絵画、雨と人々との暮らし、気象、雨と生き物、雨水利用のあれこれなど、雨を軸に様々なテーマで書かれています。



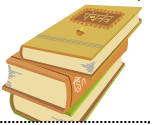
『雨の名前』

高橋順子 著

「雨の名前」422語、「雨の写真」148点、「雨の詩とエッセー」35編。花時雨、春雨、青葉雨、夏雨、狐雨・・・などあなたはいくつの雨を知っていますか？



……6月の新着図書はこちらです♪……



『本当の友だちってどんな友だちだろう？』 藤原和博 著

『イラストで記憶に残る語源ビジュアル英単語』 清水健二 著

『報道が教えてくれないアメリカ弱者革命』 堤未果 著

『アメリカの高校生が読んでいる起業の教科書』 山岡道男 著

『14歳からの世界金融危機。』 池上彰 著

『学力と新自由主義』 佐貫浩 著

『格差社会とたたかう』 後藤道夫 著

『究極の速読法』 松崎久純 著

『貧困連鎖』 橋本健二 著

『ぼくは小さくて白い』 和田裕美 著

『つみきのいえ』 加藤久仁生 著



『全盲先生、泣いて笑っていっぱい生きる』 新井淑則 著

『ブラザー・サン シスター・ムーン』 恩田陸 著

『武士道セブンティーン』 誉田哲也 著

『モダンタイムス』 伊坂幸太郎 著

『新世界より』 貴志祐介 著

『奇跡のリンゴ』 石川拓治 著

『鳴川ホルモー』 万城目学 著

『ボックス!』 百田尚樹 著

『悼む人』 天童荒太 著

『トワイライト1~13巻』 S・Meyer 著

『空想科学読本7』 柳田理科雄 著

